

Manifesto from Yong Voters

～若者たちの選択 若者からの 10 の提言～

若者たちが求めるのは「未来への投資」、「子育て支援の充実」

若年世代（18歳～21歳）100名にアンケートを行った結果、「最優先課題」に選ばれたのは、「子育て支援」でした。また、2番目に優先すべきとされたのは「災害対策」でした。未来の日本を創るため、これから若者が直面する課題、未来への投資、「子育て支援」を充実させることを政治家・政党の皆さんに要請します。

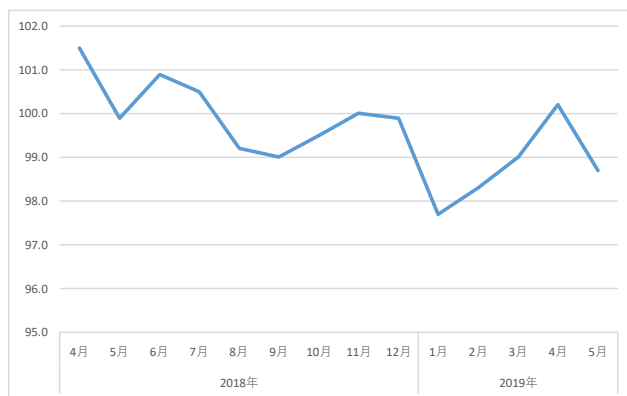
「未来志向」で考えれば、国の借金を将来世代に積み残すことも避けなければなりません。新たな政策を実現するための財源は、「未来への借金」ではなく、現在の世代で確保しなければならないと考えます。そこで、「無駄のチェック」を徹底し、歳出削減を進めるとともに、高齢世代のための施策も重要ですが、その施策のための財源の一部を「未来への投資」に配分し直すことを、若者の立場から要請します。

1. 消費税率は、当面は8%のままに。将来は10%への引き上げ、さらには10%以上への引き上げも必要。

若年世代（18歳～21歳）100名にアンケートを行った結果、消費税の税率は、当面は「8%のままが良い」という意見が45.5%を占めました。しかし、「10%にすべき」(29.7%)、「10%以上にすべき」(20.8%)という意見も多く、今後の10%、もしくは10%以上への引き上げの必要性も感じています。

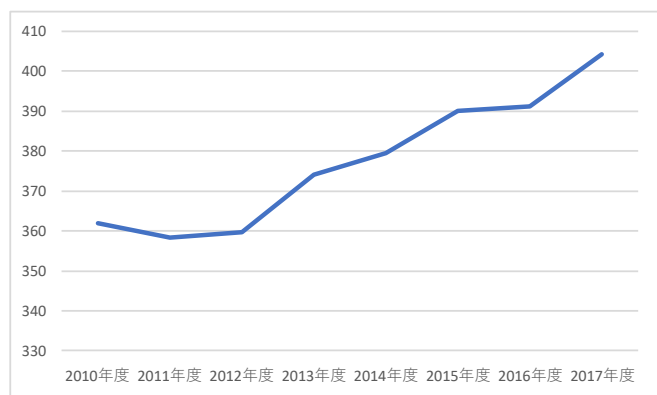
消費税の税率の引き上げと同時に、経済成長（所得の増加）と所得税の減税も必要です。所得が増えない中で、増税すれば、「可処分所得」が減少し、生活は厳しくなります。そこで所得税減税をセットに行うことで「可処分所得」の減少を緩和させ、「成長と分配」の循環を働かせていくべきです。

また将来の社会保障の安定性を高めるなど、将来不安を軽減できれば、消費性向を高め、経済成長を生むことも可能であると考えます。



実質賃金の推移

出所：厚生労働省『毎月勤労統計調査』



国民所得の推移

出所：内閣府『国民経済計算 年次推計主要計数』

2. 年金制度は、賦課方式から税・積立二段階方式に移行！

「老後資金 2000 万円不足問題」が話題となっていますが、若年世代から見れば、そもそも、将来の自分たちの年金給付が減少し、「世代間の格差」が拡大することが問題です。「老後資金不足 2000 万円問題」よりも、「世代間の格差」問題を議論してもらいたいと考えます。社会保障の給付と負担の世代間格差を是正するために、年金制度を賦課方式から税・積立二段階方式へと移行させ、若年世代の確実な年金給付を確保することを提案します。積立方式のリスクである物価変動リスクについては、消費税を活用した税方式を採用すれば、そのリスクを緩和させることができるのではないかと考えます。これにより、賦課方式で感じる世代間格差や若年世代の不公平感を解消することができます。

3. 「学びたい」と希望する誰もが所得に関係なく「学べる」社会を創る

子育て支援を充実させ、また「学びたい」と希望する誰もが所得と関係なく「学べる」社会を創るために、「幼児教育・保育」、「私立高校の授業料」、「大学等の高等教育の授業料」の実質無償化を進めていくべきです。そこで教育の質やサービスの質を高めるために、「バウチャー制度」を導入することを提案します。また教科書購入費等の負担も大きいことから、「就学」のために必要な費用を補助する奨学金制度の導入を提案します。

4. 子ども相談所の設立！子どもが楽しく過ごせる環境の整備づくり

児童虐待の問題を解決していくためには、児童相談所の機能を高めるとともに、市町村や警察、学校との連携を強化することが必要です。また児童相談所で保護した子どもたちの保護後、退所後の支援を充実させることが大切です。

また、子育てに悩む保護者のため、保護者の「心のケア」、悩みの解決など、子どもたちと保護者に「寄り添い」、問題を解決していく機関として、「子ども相談所」の設立を提案します。

さらに、民間企業等から寄付を募り、子どもが楽しく過ごせる環境を整備していくとともに、貧困世帯・低所得者世帯の子どもたちも、テーマパーク等で遊ぶことができるような機会を持つための支援を行えるようにすることも必要だと考えます。民間企業等が寄付を行いやすいように、このような子育て支援のための寄付については、損金として認め、寄付をしやすい環境を創ることが重要だと考えます。

5. 中小企業の地域活性化支援の充実を！

地域経済の活性化のためには、地域の中小企業の振興が不可欠です。そこで、「地産地消」や「特産品」の開発のための支援制度（補助金や投資減税制度）を充実させるとともに、市町村に「産学官連携コンシェルジュ」窓口を設置し、自治体や大手企業との連携を図るための支援を行うことを提案します。また、市町村の「産学官連携コンシェルジュ」には、地元就職率を高めるため、地元の経済団体や金融機関、ハローワークと連携しながら、「地元企業説明会」を開催するとともに、学生の参加者を増加させるために大学等の高等教育機関への働きかけを進める役割を持たせます。

6. ローカル鉄道を守り、便利にする

ローカル鉄道は、「地域みんなの足」として、地元にとって必要不可欠な存在です。しかしながら、多くのローカル鉄道は、地域の過疎化やモータリゼーションに伴い、経営環境が苦しい状況にあることも事実です。今後、超高齢社会が進展する中で、「地域みんなの足」を確保することは重要です。そこで、経営努力をするローカル鉄道には、利用者の運賃に上乗せするような補助を行うような支援を充実させ、ダイヤ本数を増やし、利便性を高めることを提案します。また地域住民による寄付による「市民株主制度」を導入することができるように、ローカル鉄道会社への寄付を「控除対象」として認めるための法律改正を提案します。さらに観光列車化等の経営努力に対しては、そのための投資金額を損金として認めるなどの施策を進めることを提案します。

7. 関係人口の創出のために、「地域マネジメント商社」設立

「関係人口」という概念が広まってきています。「関係人口」とは、単なる「訪問人口」でもなく、「定住人口」でもなく、その地域の「ファン」になり、何度も訪れたり、ふるさと納税をしたり、地域の特産品を購入したり、さらには口コミで、地域のことを宣伝してくれたりする方のことです。これからの地方創生では、「関係人口」の創出が大きな目標になります。そこで、「関係人口」を創出するための「地域マネジメント商社」を各地で設立できるようにするための支援を提案します。「地域マネジメント商社」の役割は、地元の自治体や観光協会と連携しながら、マーケティングやブランディングの支援を行ったり、都市部の商圈との販路を開拓したり、観光ツアーのプランニングを行ったりすることです。さらには、海外への販路を開拓します。こうした「地域マネジメント商社」を設立するため、民間企業が「地域マネジメント商社」に出資する場合は、その出資額及び配当金を、人的派遣を行う場合はその人件費分を、損金扱いとできるような税制改正を提案します。

また観光で訪れた方にもわかりやすいように、道路上の消えかかっている「標識」の修復を行うなどのインフラ整備への対応も必要です。

8. しっかりと「働き」、しっかりと「休む」「働き方改革」で生産性向上

人口減少が進展する中、「働き方改革」によるワークライフバランスの推進により、「労働生産性」を向上させることが重要です。そのため、「本人の同意のない残業の強要」に関する規制強化を行とともに、「有給休暇の完全取得」や「週休2日制の完全実施」のための規制を強化することで、「しっかりと休み」、リフレッシュして、「しっかりと働く」ことを推進していくことが必要だと考えます。さらに、生産性の向上のため、IoT技術やAI技術の導入を積極的に進めるための投資減税を提案します。

また、「育児休暇」や「介護休暇」の取得を容易にするために、「育児休暇」や「介護休暇」を取得した従業員の代わりに、臨時の従業員を雇用する場合には、その臨時の従業員の人件費を損金扱いにできるなどの施策を提案します。

さらに、就職活動においても、「インターン」を経験した学生を採用していくような採用の仕組みへと変え、学生と就職先との「ミスマッチ」を防ぐことを産業界に要請することが必要だと考えます。

9. 高齢世代のセカンドキャリア支援の推進

「老後資金 2000 万円不足問題」に対して、高齢世代の方が、定年退職後も「年金プラス α 」の収入を稼げるよう、高齢世代のセカンドキャリア支援を推進していく必要があります。現役時代の知識やスキルを活かしながら、地域の課題や社会の課題の解決に参画いただき、それを収入にすることができるような「ソーシャルビジネス」や「コミュニティビジネス」の起業、さらには地元企業との人材マッチングを行うための高齢世代対象の「シルバーハローワーク」の設置を進めていくことを提案します。

10. 若者ための政策を実現するために、財源の世代間「見直し」を実施

ここまで提案してきた施策は、「民間の力」によってできることも多くあります。「民間」が社会の課題解決に取り組むための環境の整備も、政治の大きな役割だと考えます。しかしながら、政府の政策として、財源を活用しながら、進めていかなければいけない施策もあります。そうした政策を実現するための財源は、「無駄のチェック」を徹底し、歳出削減を進めるとともに、高齢世代向けの政策の財源の一部を「未来への投資」に配分し直すことを要請します。